プロ仕様
フォトカメラ

mcpro35mm

フォトグラファーズ マニュアル



すべてのツール、設定、撮影テクニックを網羅した完全ガイド



mcpro35mm
ユーザーガイド

2026年11月9日

mcpro24fps.com/ja/guide/mcpro35mm

はじめに

① クイックボタン

② 表示・情報エリア

③ シャッターボタン

④ 露出の操作

手動露出
自動露出

⑤ フォーカス・ズーム操作

⑥ 画像の操作

⑦ 設定ボタンとメディアマネージャー

写真メニュー
撮影モード
フォーマット設定
JPEG と RAW のハードウェア設定
ビューファインダー設定
操作設定
インターフェース、ストレージ、その他の設定
メディアマネージャー

使い方ガイド

初めての撮影の前に設定する
手動露出で撮影する
どの形式を選ぶか
ブラケット撮影、インターバル、セルフタイマー
長時間露光
プリセット

アイコン

索引

はじめに

mcpro35mm は、スマートフォンのカメラを手動で操作して写真を撮るアプリです。ISO、シャッタースピード、フォーカス、ホワイトバランスを自分で設定し、写真の保存形式をカメラの JPEG、DNG、Ultra HDR、HEIC、AVIF から選びます。



このガイドの章は撮影画面のエリアに沿って並んでおり、エリアの名前はアプリの設定と同じです。各エリアの画像には番号が付いていて、その下で番号ごとにボタンを説明しています。手順を追った記事は使い方ガイドの章にあります。

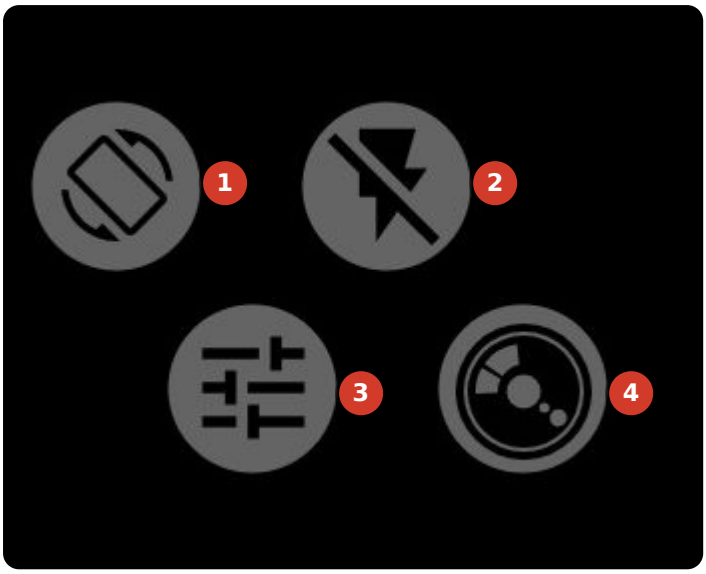
表示される項目は、スマートフォンと選択したカメラによって異なります。カメラが対応していない行は、非表示またはグレー表示になります。

フル版と無料トライアル

> フル版
>
> アカウントにログインすると、7日間すべての機能を利用できます。その後は、購入しない場合、撮影できるのは初期設定のままの状態に限られます。JPEG 形式、自動露出、オートフォーカス、自動ホワイトバランスで、プリセット、LUT、グリッド、ピーキングは使えません。

購入しなくても設定は変更できます。有料のオプションが選択されている間はシャッターボタンに赤い鍵のマークが表示され、シャッターを押すと購入画面が開きます。設定をデフォルトに戻すか、買い切りのフル版を購入してください。セルフタイマー、写真の評価、撮影者名、解像度の選択は、購入しなくても使えます。

① クイックボタン



1 画面の向き

インターフェースの回転のしかたを設定します。ダブルタップすると向きのメニューが開きます。長押しすると現在の向きに固定され、固定中なら解除されます。

2 フラッシュ

タップするとフラッシュモードが順に切り替わります。アイコンは現在のモードを示します。切り替わるのは、カメラにあるモードだけです。

オフ。

発光するかどうかをカメラが判断します。自動露出でのみ使えます。

撮影のたびに発光します。手動露出では単発の発光になります。

赤目軽減。自動露出でのみ使えます。

外部フラッシュ。自動露出でのみ使えます。

画面をフラッシュとして使います。フラッシュのないフロントカメラ用です。

ライトを点灯したままにします。

連写、ブラケット撮影、インターバル、セルフタイマーのカウントダウンの実行中は、モードを切り替えられません。スマートフォンでフラッシュの光量を変更できる場合は、ボタンを長押しすると光量のホイールが開きます。

3 プリセット

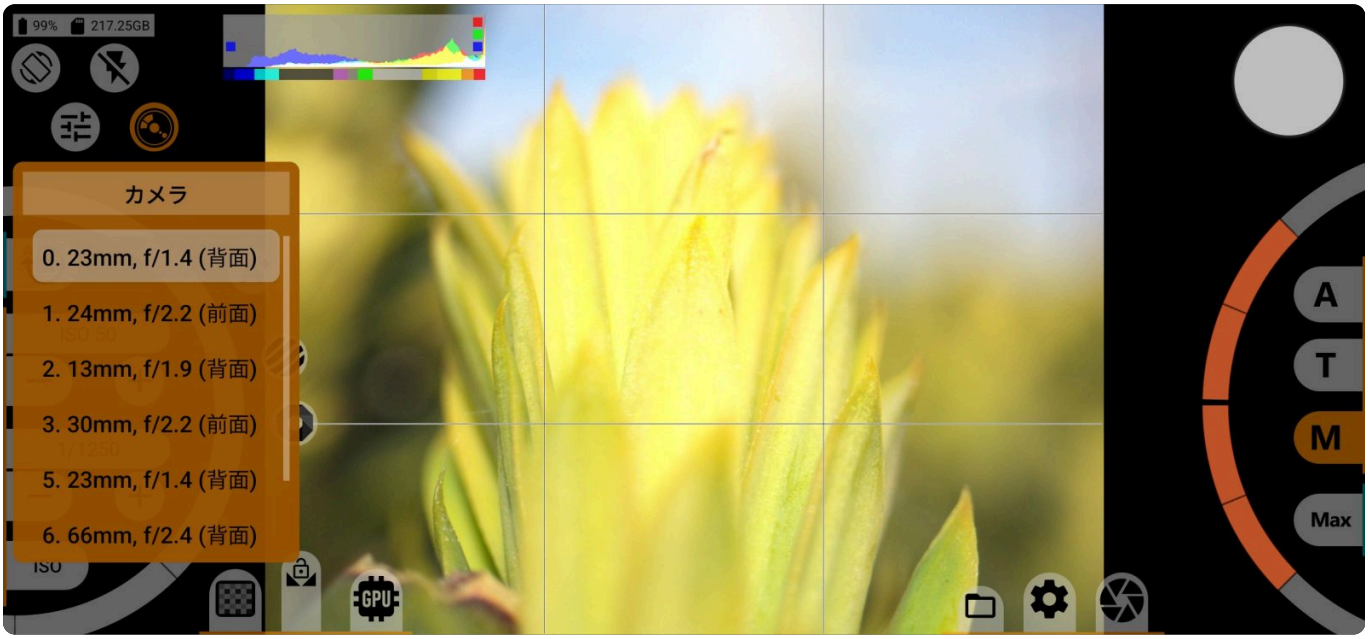


保存した設定一式の一覧を開きます。作成方法はプリセットの記事をご覧ください。

4 カメラ

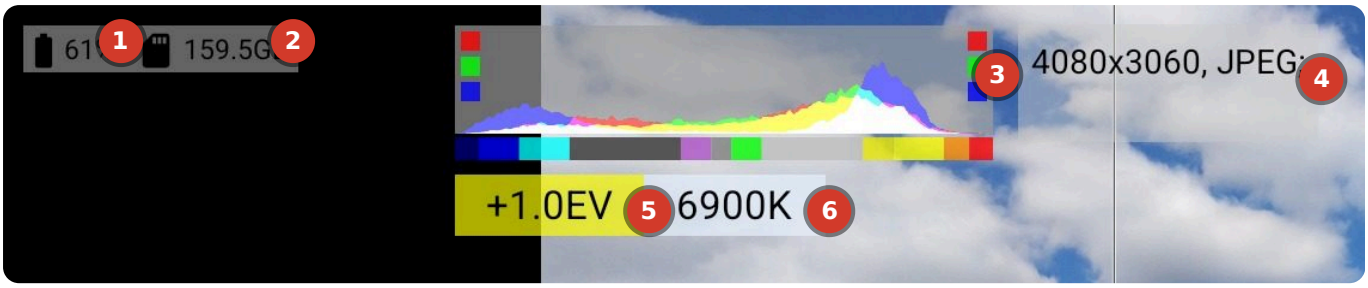


スマートフォンのカメラの一覧を開きます。番号、焦点距離、絞り値、向き（背面、前面、外部）が表示されます。現在のカメラは強調表示されます。



ほとんどの設定はカメラごとに個別に保存されます。

② 表示・情報エリア



1 バッテリー

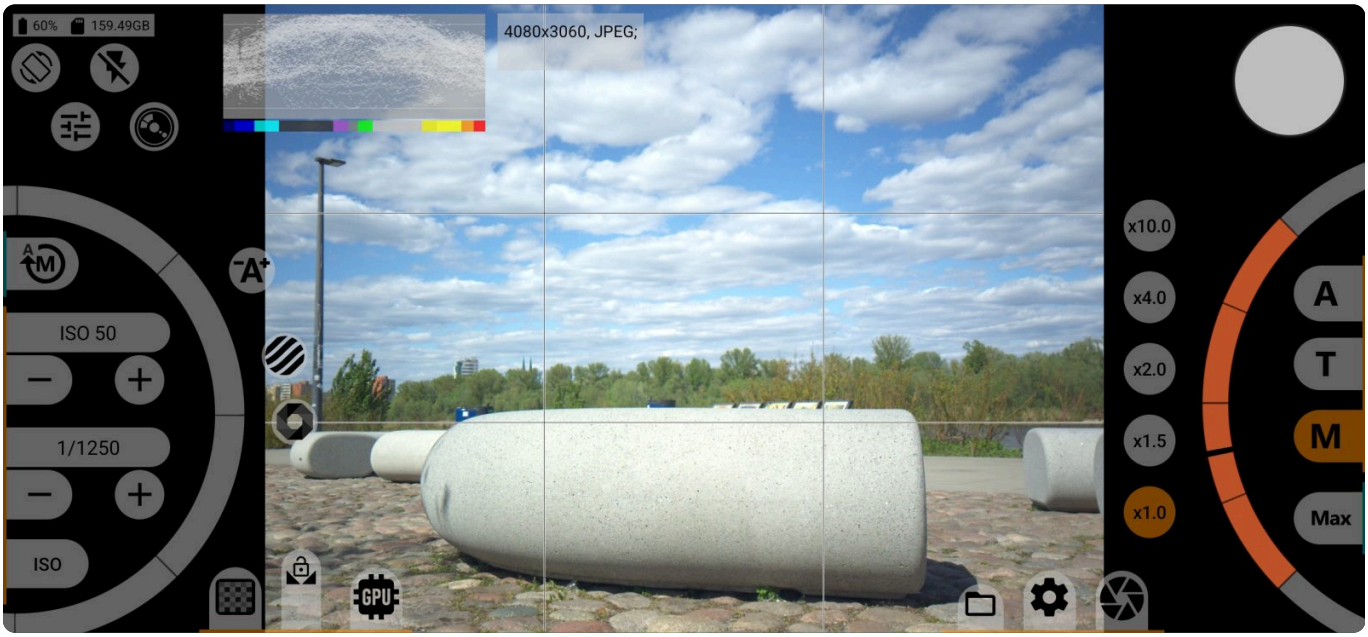
バッテリー残量をパーセントで表示します。

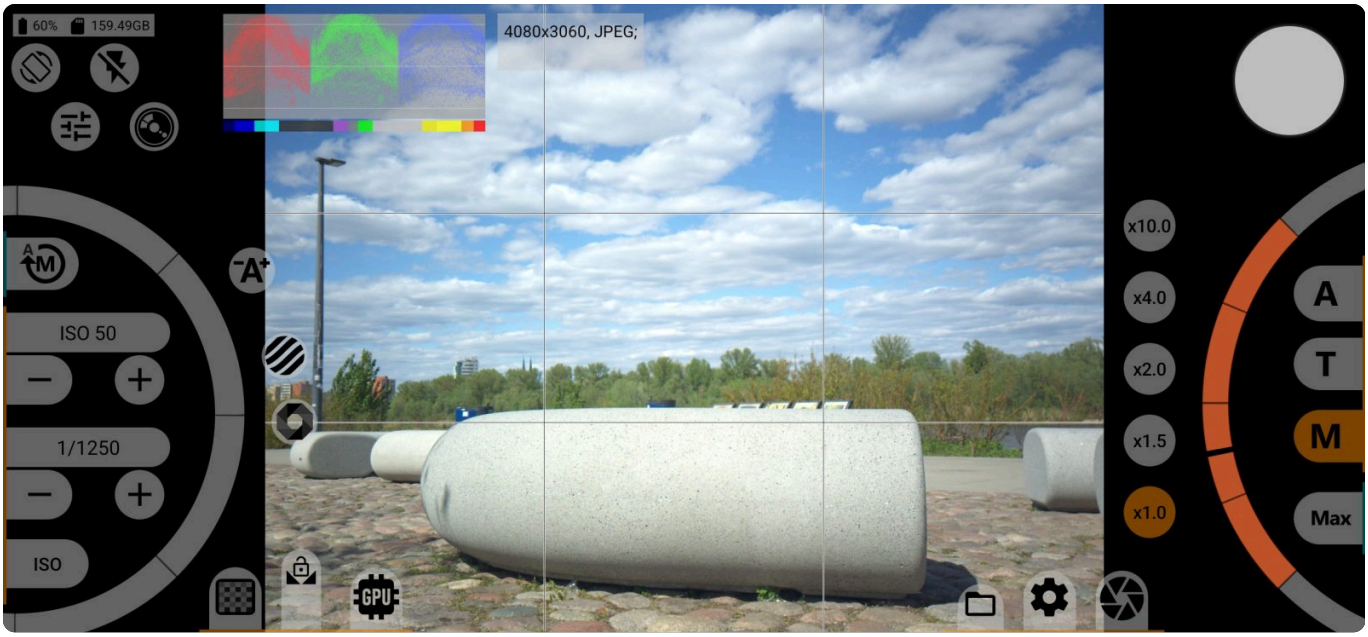
2 空き容量

選択したストレージの空き容量です。

3 ヒストグラム

フレーム内の明るさの分布です。タップすると表示が順に切り替わります。輝度、RGB、ピークに合わせてスケーリングした輝度、Waveform、RGB Parade の順です。ヒストグラムはファインダーLUT を適用する前の映像から作られます。常時表示の種類はビューファインダー設定メニューで選択します。



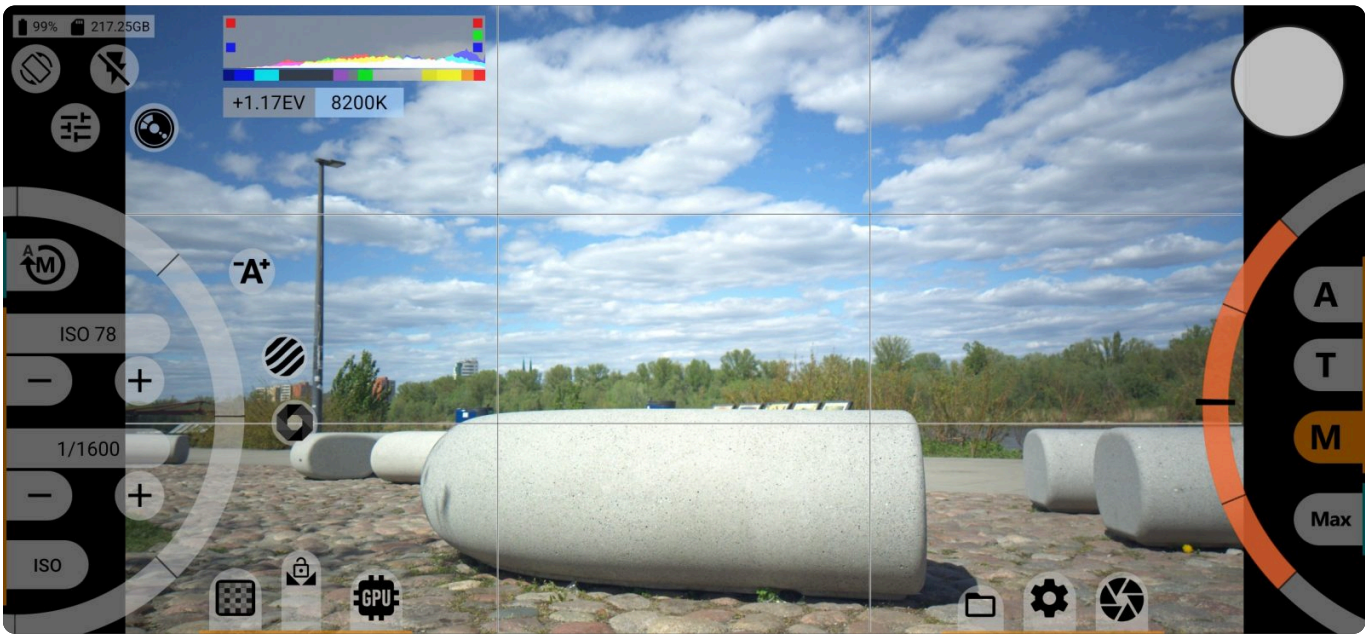


4 情報エリア

次の写真のパラメーターを示すテキストの行です。解像度、形式、ビット深度が表示され、オンにすればホワイトバランスとカーブも加わります。内容はインターフェースメニューで選択します。

5 シーンの EV

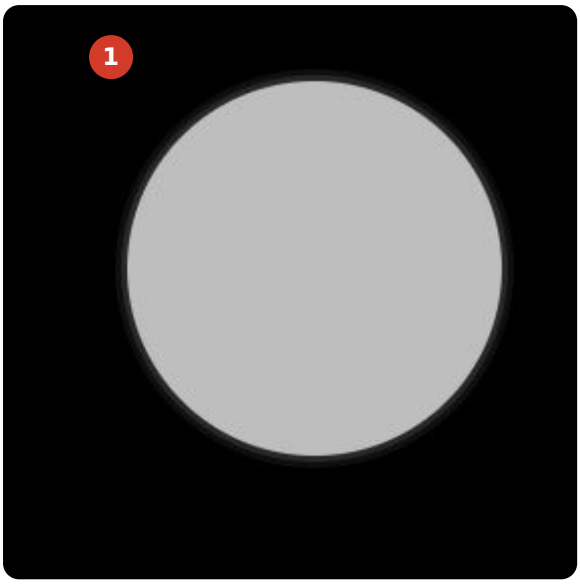
ヒストグラムの下のラベルは、シーンが適正よりどれだけ暗いか明るいかを EV の段数で示します。このラベルをオンにする場所は、ヒストグラムの常時表示の種類を選ぶメニューと同じです。測定範囲もそこで、フレーム全体か一部かを設定します。



6 シーンの色温度

その横のラベルは、カメラが判定した色温度を示します。オンにする場所も設定する場所も同じメニューです。

③ シャッターボタン



1 シャッターレリーズ

タップすると写真を撮影します。撮影中はボタンが淡い色になり、ビューファインダーに黒いシャッター幕が閉じます。前の写真の保存中でも次の写真を撮影でき、写真はキューに入って待機します。キューがいっぱいになると、ボタンは空きができるまで次の撮影を待ちます。

長押しが機能するのは、連写を**押している間**に設定している場合だけです（下記参照）。

ボタンの周囲のリング

シャッターボタンの周囲の細いオレンジのリングは、ボタンの動作が通常と異なるモードがオンであることを示します。対象はセルフタイマー、連写、ブラケット撮影、インターバルです。1秒以上の長時間露光の間も、同じリングが表示されます。

リング上の弧は進行状況を示します。セルフタイマーのカウントダウン、ブラケット撮影の撮影済み枚数、次のインターバル撮影までの時間、連写バッファの使用量、長時間露光の時間です。



各モードでのボタンの動作

モードは撮影モードでオンにします。

- **セルフタイマー**：1回押すとカウントダウンが始まり、画面中央に数字が表示されます。もう一度押すとキャンセルされます。
- **連写**：**押している間**を選択している場合は、指がボタンに触れている間、撮影が続きます。枚数を指定している場合は、1回押すと指定した枚数をすべて撮影し、もう一度押すと停止します。上部に「● 7 / 20」のようなカウンターが表示されます。
- **ブラケット撮影**：1回押すとブラケット全体を撮影し、もう一度押すと残りの撮影がキャンセルされます。
- **インターバル**：1枚目はすぐに撮影され、残りはスケジュールどおりに撮影されます。上部に撮影番号と次の撮影までの時間が表示されます。もう一度押すと撮影が止まります。

連写、ブラケット撮影、インターバル、セルフタイマーのカウントダウンの実行中は、メニューは開きません。





ボタンの鍵マーク

赤い鍵のマークは、現在の設定での撮影がフル版でのみ可能なことを示します。ボタンをタップすると購入画面が開きます。フル版と無料トライアルをご覧ください。

スマートフォンのボタン

デフォルトでは音量キーがシャッターレリーズとして機能し、キーを離したときに撮影します。押している間撮影する設定の連写では、キーを押している間、撮影が続きます。スマートフォンのカメラキーは、デフォルトではオフです。割り当てを変更するには、操作設定に進みます。

④ 露出の操作

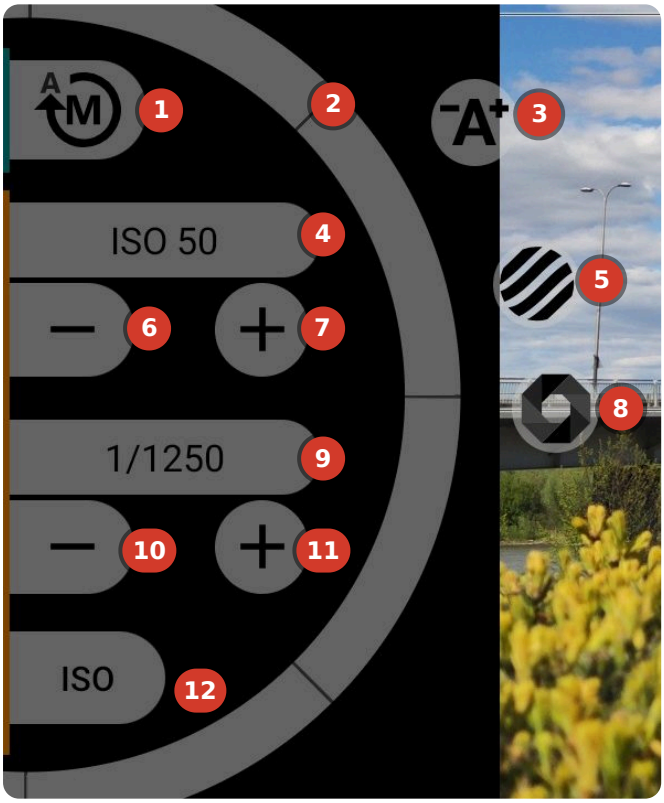
露出には2つのモードがあり、それぞれ画面の左端に専用のボタン列があります。デフォルトは自動露出です。カメラが手動露出に対応していない場合は、自動露出だけが使えます。

手動モードでは ISO とシャッタースピードを自分で設定します。手動露出をご覧ください。自動モードではカメラがこれらを選び、EV 補正で結果を調整します。自動露出をご覧ください。

ゼブラと**フォルスカラー**はどちらのモードでも使え、フレーム全体の露出を判断するのに役立ちます。

> フル版
> 手動露出はフル版の機能です。

手動露出



マニュアル露出

1 露出モード

手動露出がオンの状態です。タップすると自動露出に切り替わります。連写、ブラケット撮影、インターバル、セルフタイマーのカウントダウンの実行中は、このスイッチは機能しません。

2 ホイール

左側の半円形のホイールは、ホイールモードボタンで選択した項目を変更します。項目はISO、シャッタースピード、またはその両方です。

3 オートアシスト

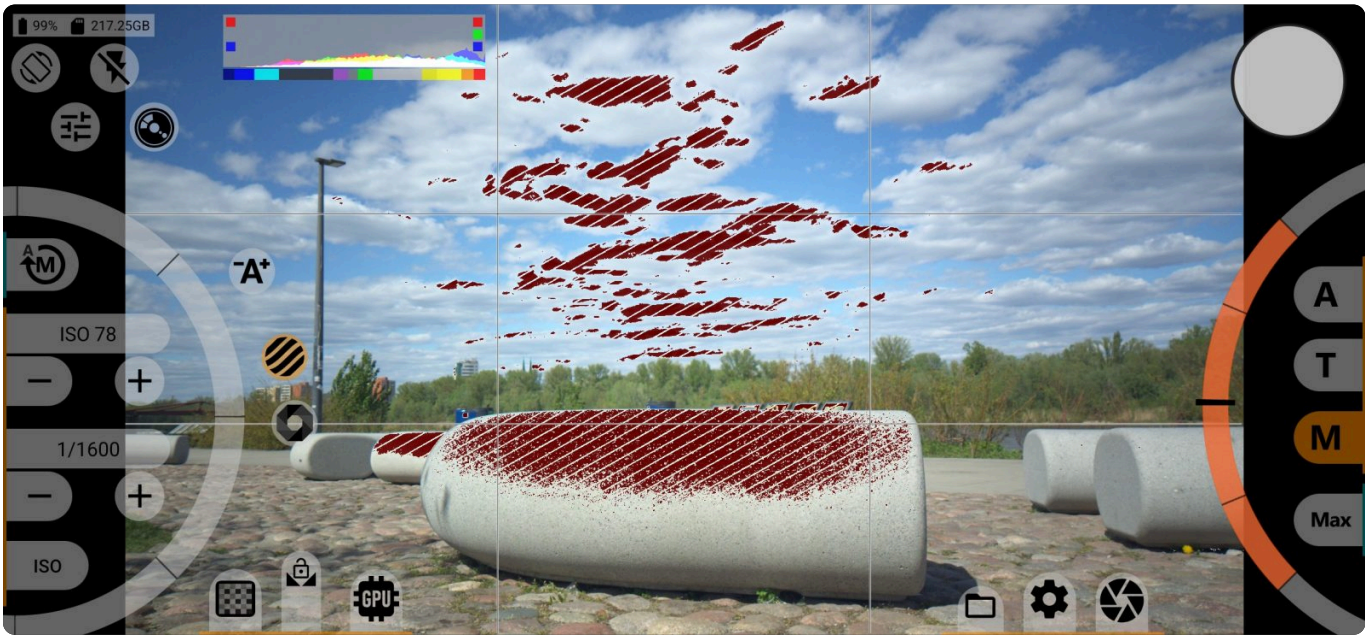
露出を一度だけ自動で合わせます。ボタンを押し続けてください。押している間、カメラは自動露出で動作します。指を離すと、カメラが判断した明るさをアプリが手動のシャッタースピードと ISO に変換します。ISO は 1600 を超えず、シャッタースピードは 1/4 秒より長くなりません。

4 ISO 値

現在の値を表示します（例：「ISO 200」）。ISO がセンサーのアナログ上限を超えると、表示が強調されます。その先はカメラがデジタルゲインをかけるため、ノイズが増えます。

5 ゼブラ

明るすぎる部分や暗すぎる部分に縞模様を重ねて表示します。もう一度タップすると消えます。しきい値はビューファインダー設定メニューで設定します。ゼブラをオンにすると、**フォルスカラー**はオフになります。



6 7 ISO を下げる・上げる

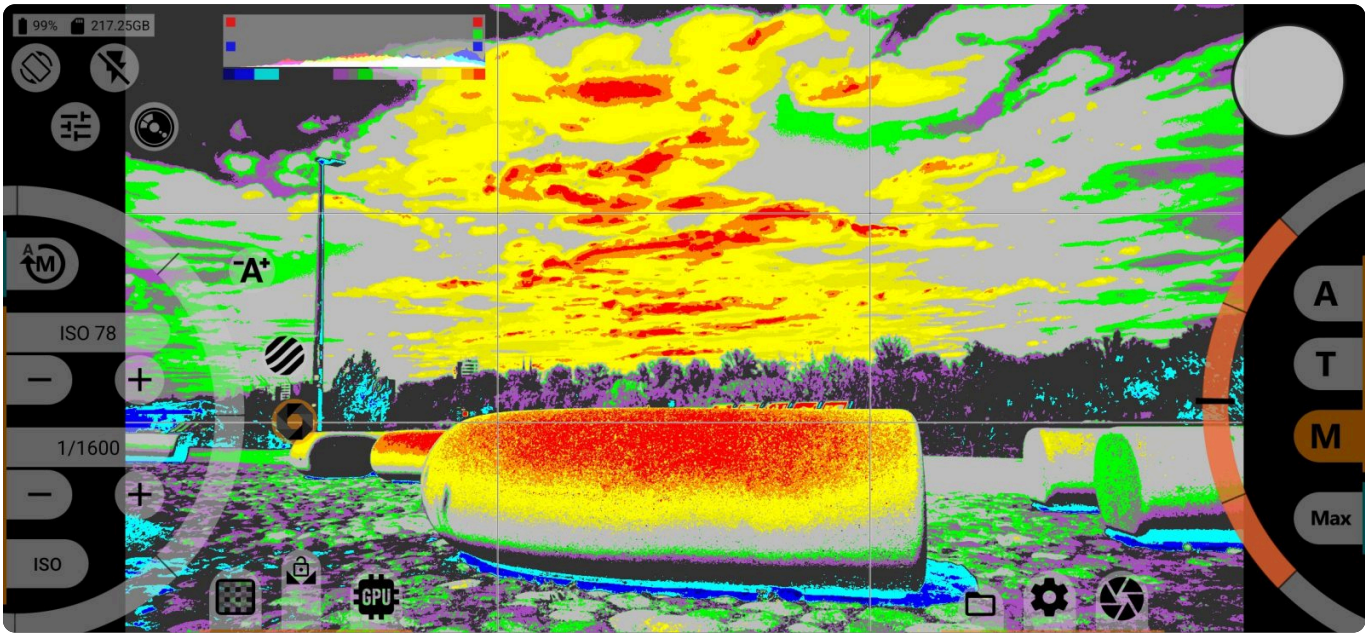
ISO を1/3段下げます。

ISO を1/3段上げます。

上限と下限はカメラによって決まります。

8 フォルスカラー

映像を明るさに応じて色分けし、フレーム全体の露出をひと目で判断できるようにします。もう一度タップするとオフになります。



9 シャッタースピード

シャッタースピードを表示します（1/1250、1/60、0.3"、2"）。スケールは 1/8000 から30秒まで 1/3段刻みで動き、スケールの端はカメラによって決まります。動画と違い、フレームレートはシャッタースピードに影響しません。

10 11 シャッターを短く・長く

1/3段短くします。フレームは暗くなります。

1/3段長くします。フレームは明るくなります。

12 ホイールモード

ISO、SS、EV と表示されるボタンで、ホイールで変更する項目を選びます。

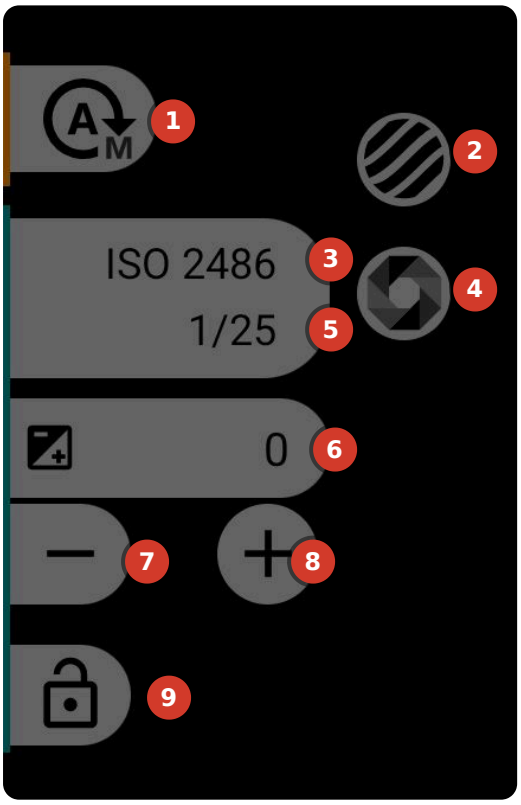
- ISO：感度。
- SS：シャッタースピード。1/3段刻みです。
- EV：シャッタースピードと ISO の両方。フレームが暗くまたは明るくなり、アプリがその変化を両者に振り分けます。

SS または EV を選択している間、ボタンは強調表示されます。

ファインダーLUT

このボタンは、ファインダーLUT が選択されていて、現在のカーブで使える場合に表示されます。タップすると、ビューファインダーでの LUT の表示方法が変わります。LUT は写真には影響しません。

自動露出



自動露出

1 露出モード



自動露出がオンの状態です。タップすると手動露出に切り替わります。カメラが手動露出に対応していない場合、このボタンは表示されません。

2 ゼブラ

手動露出の場合と同じように動作します。

3 5 ISO とシャッタースピード

カメラが現在選択している ISO とシャッタースピードです。

4 フォルスカラー

手動露出の場合と同じように動作します。

6 EV 補正

アイコンと数値は、自動露出に適用されている補正量を示します。数値をダブルタップすると 0 に戻ります。

7 8 暗く・明るく



フレームを暗くします。



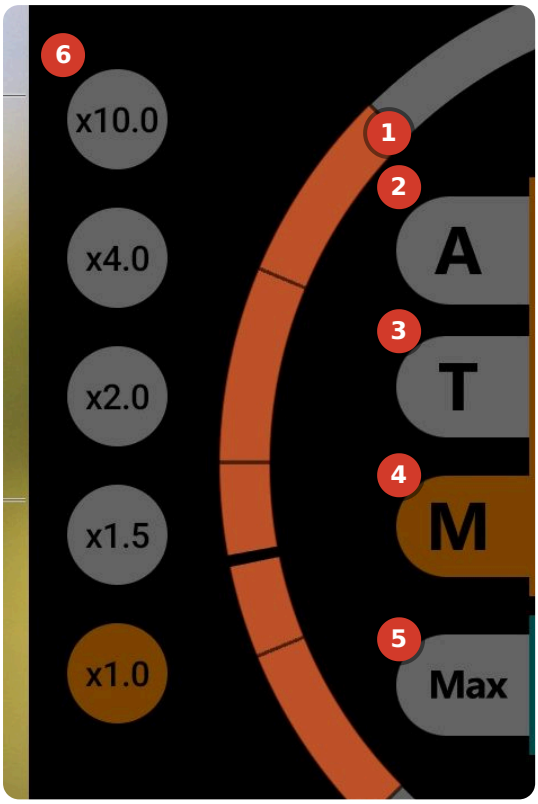
フレームを明るくします。

9 AE ロック



カメラの現在の露出を固定します。もう一度タップすると固定を解除します。

⑤ フォーカス・ズーム操作



フォーカス：M

1 ホイール

右端のホイールは、隣のボタンのどれを選択しているかに応じて、フォーカスまたはズームを変更します。弧の色は、手動フォーカスではオレンジ、ズームではターコイズです。モード A と T では、細いグレーの弧が現在のピント位置を示すだけです。

2 A：常時オートフォーカス

A カメラが自動でピントを合わせ続けます。デフォルトではこのモードがオンです。

3 T：タップフォーカス

T フレーム内の点をタップすると、カメラがその点にピントを合わせます。結果は四角い枠で示されます。ピント合わせの間はグレー、ピントが合うと緑になります。このモードはすべてのカメラで使えるわけではありません。



4 M：手動フォーカス

ホイールでピントを設定します。ビューファインダーの任意の点をダブルタップするとその部分が拡大され、より正確にピントを合わせられます。もう一度ダブルタップすると通常の表示に戻ります。



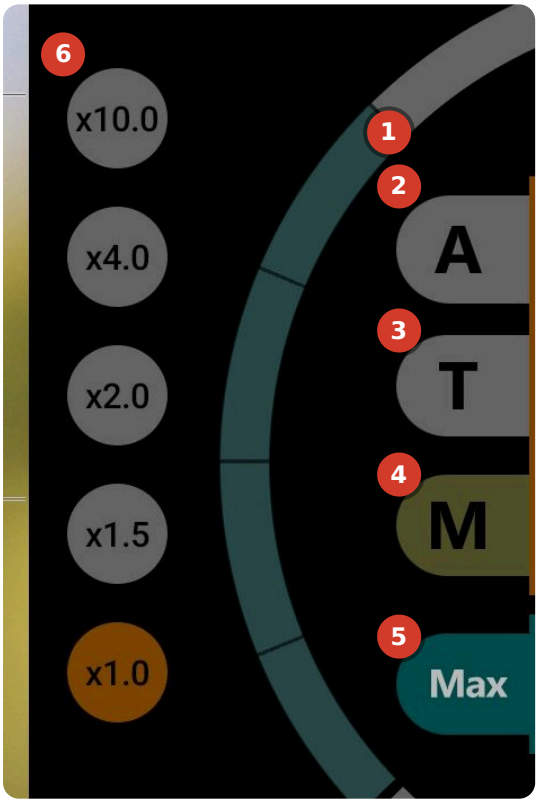
M を長押しすると無限遠モードがオンになります。このモードでピントがどの位置に移動するかは**無限遠フォーカスモード**の行で設定します。この行は操作設定にあります。

フォーカスピーキングはピントの確認に役立ちます。ピントが合っている被写体の輪郭を強調表示します。



5 ズーム

短くタップするとホイールがズームに切り替わります。長押しするとズームの上限（**最大ズーム**）が順に切り替わり、ボタンのアイコンが現在の上限を示します。



ズーム

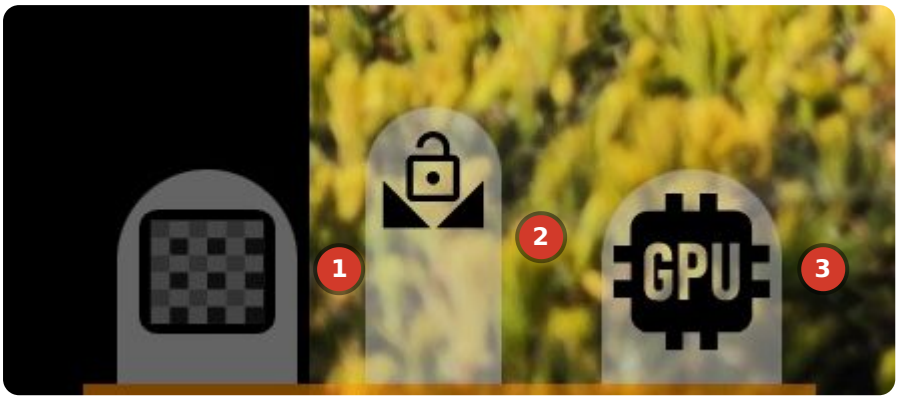
6 ズーム倍率ボタン

x1.5 や x2.0 など、設定されたズーム倍率に直接移動するボタンです。インターフェースで非表示にできます。

顔フォーカス

この設定には、撮影画面に専用のボタンはありません。設定の行は操作設定にあります。

⑥ 画像の操作



1 ホワイトバランス

下で説明するホワイトバランスメニューを開きます。もう一度タップすると閉じます。

2 ホワイトバランスロック

自動ホワイトバランスのときに表示されます。タップするとバランスを固定します：。

ワンショット AWB

手動モードでは、ロックの代わりに「A」ボタンが表示されます。ボタンを押し続けてください。押している間、カメラは自動ホワイトバランスで動作します。指を離すと、その結果が手動の設定になります。

プリセットを保存していない手動ホワイトバランス。

保存済みのプリセットを選択中です。ダブルタップすると通常の手動モードに戻ります。

3 カーブ、色、画像

画像処理のメニューを開きます。カーブ、色、画像、ノイズリダクションを設定できます。カーブのスライダーでは Log の強さ（mLog）、ガンマ、コントラストを調整します。



JPEG、HEIC、AVIF の RAW現像形式では、カーブの設定は写真そのものに適用されます。カメラの JPEG では、カメラがカーブを適用します。

> **フル版**
> 初期設定以外のカーブ、色、画像、ノイズリダクションのプリセットはフル版の機能です。

ホワイトバランスメニュー

ホワイトバランスボタンを押すと、左側にタブが並ぶメニューが開きます。一覧には、カメラが対応しているモードが表示されます。自動、手動、電球や太陽光などのプリセットモードです。



手動 WB

このタブは**手動**モードでのみ機能します。ほかのモードでは「**このタブは、手動 WB モードでのみ動作します**」というメッセージと、手動モードに切り替える**オンにする**ボタンが表示されます。



右の列のボタンでパネルを切り替えます。パネルはホワイトバランス、色域、カラーマトリクスの3つです。後の2つは、DNG 形式と、手動の色処理に対応していないカメラでは使えません。左の列のボタンで、ビューファインダーに重ねる色のチェックをオンにします。

4 バランスプレート

四角いプレートは、2つのホイールを同時に動かします。横方向は色温度、縦方向は色合いです。マーカーは現在のバランスを示します。

5 色温度ホイール

縦のホイールで、バランスを青と黄の間で動かします。ダブルタップするとリセットされます。

6 色合いホイール

横のホイールで、バランスを緑とマゼンタの間で動かします。ダブルタップするとリセットされます。

7 ケルビンホイール

色温度を 3000 K から 8000 K の範囲で設定し、色合いはそのまま保ちます。「-」はケルビン値が設定されていないことを示します。

8 ワンショット AWB



撮影画面の「A」ボタンと同じように動作します。押している間はカメラが自動でバランスを合わせ、指を離すとその結果が手動の設定になります。

9 10 プリセット

一覧には現在のプリセットが表示されます。は、現在のバランスに30文字までの名前を付けてプリセットとして保存します。保存済みのプリセットでは、でその値に戻り、で削除します。

11 ホワイトバランスパネル



上で説明したホワイトバランスパネルを表示します。

12 色域



色域パネルを表示します。カメラのカラーマトリクスの変換先となる色空間を選びます。選択肢：sRGB/Rec.709、P3-D65、P3-DCI、Rec.2020、A Wide Gamut、C Cinema Gamut、P V-Gamut、R Wide Gamut、S-Gamut/-3、S-Gamut3.Cine、D-Gamut、Davinci Wide Gamut、ACES AP1、ACES AP0、XYZ。

13 カラーマトリクス



カラーマトリクスパネルを表示します。彩度、ゲイン、色相の各ブロックに、共通のスライダーと R、G、B 個別のスライダーがあります。スライダーをダブルタップするとリセットされます。

14 ハイライト補正



「虫」ボタンは、手動ホワイトバランスで急なカーブを使ったときにハイライトに出るアーティファクトを除去します。ゲインをわずかに下げ、カーブを再計算します。

15 肌色チェック（広）



フレーム内の肌色の部分を黄色で塗ります。選択範囲は広く、近い色調も含みます。

16 肌色チェック



同じチェックを狭い範囲で行います。対象は、色と明るさが肌に近い色調だけです。

17 ニュートラルチェック



フレーム内のニュートラルで彩度の低い部分を黄色で塗ります。グレーカードや白い壁でバランスを合わせるときに役立ちます。バランスが合っていれば、それらが黄色になります。

3つのチェックはこのタブが開いている間だけ画面に表示され、写真には影響しません。

⑦ 設定ボタンとメディアマネージャー



1 メディアマネージャー

写真の一覧を開きます。メディアマネージャーをご覧ください。

2 設定

設定メニューを開きます。

3 写真メニュー

写真メニューを開きます。サイズ、形式、撮影モードを設定します。

絞り

絞り値です。このボタンは複数の絞りを持つカメラでのみ表示され、タップすると順に切り替わります。

まとめたボタン

画面の幅が狭い場合にのみ表示され、これらのボタンをまとめたパネルを開きます。

写真メニュー

アプリでは： 7 →



連写、ブラケット撮影、インターバル、セルフタイマーのカウントダウンの実行中は、このメニューは開きません。

解像度

写真のサイズです。カメラが対応しているサイズから選びます。ホイールで値を選び、**適用**をタップします。ビューファインダーのフレームレートは、選択したサイズに合わせて最大 30 fps まで自動で設定されます。



形式

矢印で形式を順に切り替えます。スマートフォンが対応していない形式は含まれません。

| 形式 | 結果 | |---|---| | JPEG | カメラの処理による通常の JPEG | | DNG | パソコンで現像するための、未処理のセンサーデータ | | JPEG、RAW現像 | アプリが RAW から現像する JPEG | | Ultra HDR、RAW現像 | ゲインマップ付きの JPEG。HDR 画面では明るい部分が輝いて見え、HDR に対応していない画面では通常の JPEG として表示されます | | HEIC、RAW現像 | 同じ画質の JPEG より小さい HEIC ファイル。ハードウェア HEVC エンコーダーが必要です | | HEIC HDR、RAW現像 | HDR 対応の10ビット HEIC。HDR の種類は**HDRタイプ**の行で設定します | | AVIF、RAW現像 | AVIF ファイル。ハードウェア AV1 エンコーダーが必要です | | AVIF HDR、RAW現像 | HDR 対応の10ビット AVIF |

「RAW現像」の表示は、アプリ自身が写真を生成することを示します。カメラのノイズリダクションとシャープネスは適用されず、代わりにフォーマット設定の設定が適用されます。

> フル版
>
> カメラの JPEG 以外の形式はすべてフル版の機能です。

DNGも保存

同じフレームの DNG も写真と並べて保存します。JPEG 形式では JPEG+DNG モードになります。DNG 形式では、すでに DNG が保存されるため、この行はグレー表示になります。

ファイルはデフォルトで `DCIM/mcpro35mm` フォルダーに保存されます。保存先はストレージ設定で変更できます。写真のファイル名には、日付、時刻、シャッタースピード、ISO が含まれます（例：`P261109-143012_482-1_60-iso100.jpg`）。

撮影モード

アプリでは： 7 → → 撮影モード



これらのモードがシャッターボタンでどう表示されるかは、シャッターボタンのページで説明しています。同時に使えない行はグレー表示になります。

セルフタイマー

撮影までの遅延時間です。オフ、2秒、5秒、10秒から選びます。セルフタイマーは購入しなくても使えます。

連写と連写枚数

連写をオンにします。枚数は**押している間**（ボタンを押している間撮影）、3、5、10、20、50から選びます。

連写は、ブラケット撮影やフラッシュと併用できません。インターバルまたはセルフタイマーをオンにすると、**押している間**に設定した連写は10枚撮影します。これらのモードではボタンを押し続けないためです。

バッファに入る枚数は、形式とスマートフォンの空きメモリによって変わります。

ブラケット撮影と段数

露出ブラケットです。オフ、3枚、5枚、7枚から選びます。1ステップの段数は 1/3、1/2、1、2段から選び、デフォルトは1段です。撮影の順序は、基準、1ステップ下、1ステップ上、2ステップ下、2ステップ上と続きます。

ブラケットは ISO を変えずにシャッタースピードを変えます。シャッタースピードが範囲の端に達すると、足りない分をアプリが ISO で補います。手動露出では設定した値が、自動露出ではビューファインダーの最後の測光値がブラケットの起点になります。

ブラケット番号、撮影番号、オフセットがファイル名に追加されます（例：`-bkt12-3_+1EV`）。

インターバルとインターバル撮影枚数

スケジュールに沿って、1秒から60分までの間隔で写真を撮影します。撮影枚数は無制限、10、20、50、100、200、500、1000 から選びます。

最初の1枚はすぐに撮影されます。次の予定時刻までに写真の保存が終わっていない場合は、カメラが空き次第すぐに次を撮影し、スケジュールはずれます。撮り損ねた分をアプリが補うことはありません。

インターバルと同時に連写がオンの場合、この数は連写の回数を決めます。

フォーマット設定

アプリでは： 7 → → フォーマット設定



このセクションの行は形式によって変わります。選択した形式に関係のない行は非表示になります。

JPEG画質

写真の画質です。80 から 100 まで5刻みで設定でき、デフォルトは 95 です。HEIC と AVIF ではこの行の名前は**画質**になり、エンコーダーの画質を設定します。DNG 形式では、この行は表示されません。

ノイズリダクション

RAW現像のノイズリダクションです。オフ、弱、標準、強から選びます。デフォルトは標準です。フレームごとのノイズをもとに計算します。DNG ファイルには影響しません。



ホットピクセル補正

RAW現像のときに、孤立した明るい点を除去します。デフォルトはオンです。

HDRタイプ

HEIC HDR と AVIF HDR 用の設定です。ゲインマップ、マップ 10ビット、HLG、PQ から選びます。ゲインマップ付きの写真は通常の画面と互換性があります。通常の画面では普通の写真として表示され、HDR 画面ではハイライトがより明るくなります。HLG と PQ は HDR での鑑賞を前提としています。実際の表示は、使用するギャラリーによって異なります。



DNG 設定

DNG を保存するときに表示されます。

- **RAWの種類**：データのビット深度です。RAW16、RAW14、RAW12、RAW10、RAW8 から選びます。デフォルトは RAW16 です。
- **量子化の種類**：リニアまたは対数。データを少ないビット数に落とす場合の方式です。
- **フレーム/スケール**：フレームを写真のサイズに合わせる方法です。RAW現像の写真では、この行は非表示になります。
- **圧縮**：DNG の圧縮です。デフォルトはオフです。



位置情報

写真に座標を書き込みます。オンにすると、アプリが位置情報へのアクセス許可を求めます。デフォルトはオフです。

JPEG と RAW のハードウェア設定

アプリでは： 7 →

写真メニューの2つのセクションで、カメラ内部の処理を設定します。JPEG の設定は JPEG または JPEG+DNG 形式でのみ、RAW の設定は DNG を保存するときにのみ有効です。それ以外のときは、セクション名がグレー表示になります。



JPEG ハードウェア設定

ゼロ処理

ボタン1つでほぼすべての処理をオフにします。sRGB カーブを設定し、カメラのノイズリダクションとシャープネスをオフにして、処理のプリセットをリセットします。レンズの補正はそのままです。もう一度押すと以前の値に戻ります。

カメラの処理

- **ノイズリダクション**、**シャープネス**：カメラ内部のノイズリダクションとシャープネスです。
- **歪み補正**、**ビネット補正**：レンズの歪みとビネットの補正です。
- 手ぶれ補正：カメラが対応を報告している場合にのみ、この行が表示されます。

フレーム

- **フレームを比率に合わせて切り取る**：写真を選択した縦横比に切り抜きます。パノラマの 65:24 と 3:1 も選べます。DNG では切り抜きが推奨クロップとして書き込まれ、元のデータはそのまま残ります。
- **写真のスケーリング**：最終的な写真のサイズを縮小します。
- **写真のデスクイーズ**：アナモルフィックアダプター用に写真を引き伸ばします。
- **DOF アダプター**：被写界深度アダプターを通して撮影するための設定です。

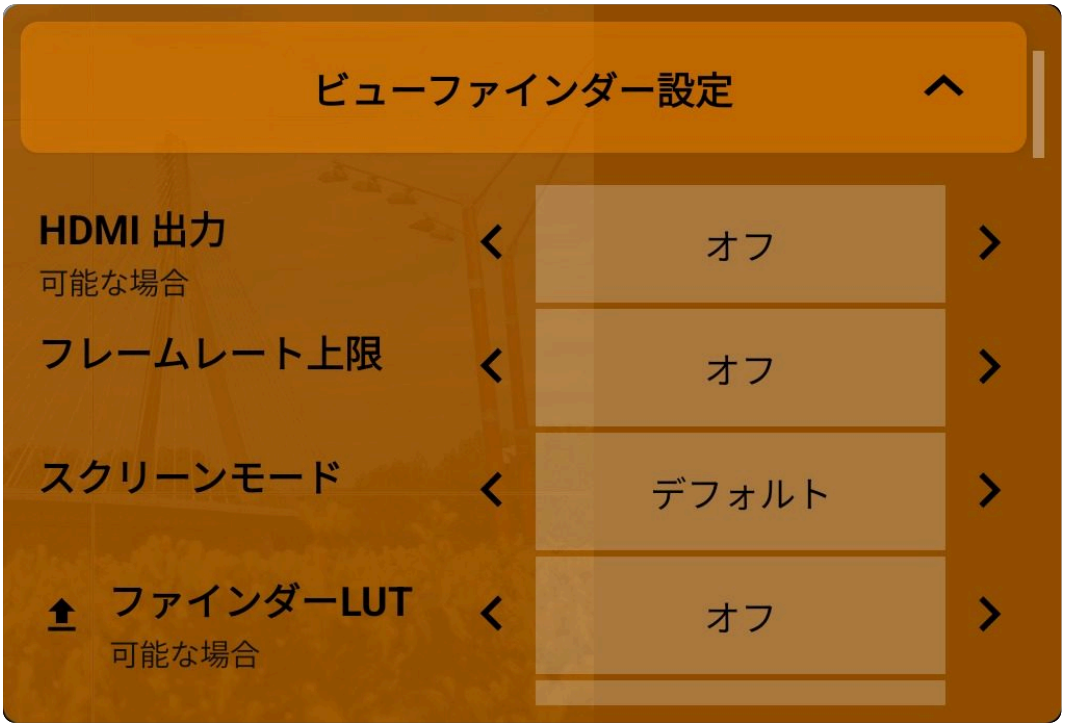
RAW ハードウェア設定



- **歪み補正**と**ノイズプロファイル**：カメラが提供している場合に、現像ソフト用のデータを DNG に追加します。
- **ビネット補正**：ビネット補正です。「焼き込み」はデータそのものを補正し、「メタデータ」は現像ソフト用に補正情報を書き込みます。

ビューファインダー設定

アプリでは： 7 → ⚙ → ビューファインダー設定



このセクションの設定はすべて画面上の映像にだけ影響し、写真は変わりません。

- **HDMI 出力**：スマートフォンが対応している場合に、映像を外部モニターに出力します。
- **フレームレート上限**：ビューファインダーのフレームレートを制限します。
- **スクリーンモード**：HDR 画面での映像の描画方法です。
- **ファインダーLUT**：表示専用の LUT です。隣のボタンで LUT を `.cube` ファイルに保存します。
- **解像度の上限**：ビューファインダーの解像度です。
- **ヒストグラム**：ヒストグラムの種類、またはオフです。Waveform と RGB Parade もここにあります。
- **シーンの EV**、**シーンの色温度**：シーンの測定値を示すラベルと、その測定範囲です。

フォーカスピーキング

ピントが合っている部分の輪郭を強調表示します。**フォーカスピーキングモード**で、強調表示が見えるタイミングを常時またはフォーカスホイールに触れたときから選びます。**フォーカスピーキング強度**で強調表示を目立たせます。

露出ピーキング

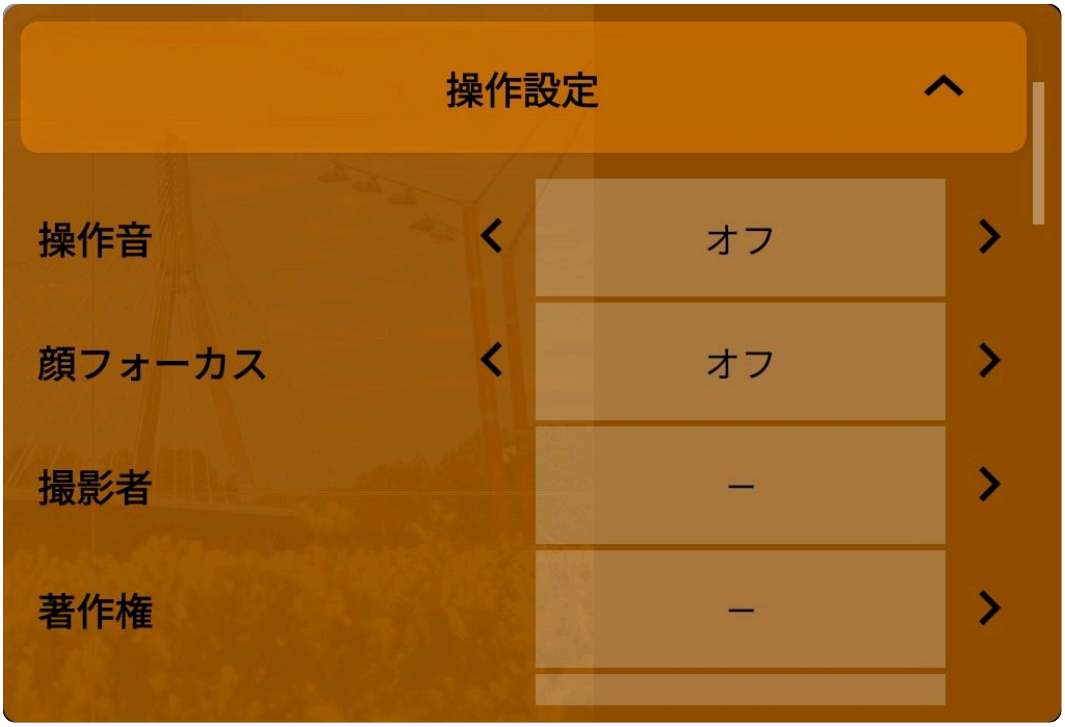
露出ピーキングタイプで**ゼブラ**または**フォルスカラー**を選びます。**下限**と**上限**でしきい値をパーセントで設定します。デフォルトは 2.5 と 97.5 です。

グリッド

- **フレームライン**：選択した縦横比の枠です。65:24 と 3:1 も選べます。
- **グリッド**：構図用の線です。
- **ビューファインダーのデスクイーズ**：アナモルフィックアダプター用に画面上の映像を引き伸ばします。

操作設定

アプリでは： 7 → ⚙ → 操作設定



- **操作音**：アプリの音です。
- **顔フォーカス**：オートフォーカスが顔を検出し、顔にピントを合わせ続けます。モード A で動作します。カメラが顔を検出できる場合にのみ、この行が表示されます。
- **AWB オートロック**、**AE オートロック**：ホワイトバランスと露出のロックです。
- **最大ズーム**：ズームの上限です。
- **無限遠フォーカスモード**：無限遠モードでピントを移動する位置です。

撮影者と著作権

撮影者名と著作権者です。それぞれ64文字まで入力できます。すべての JPEG と DNG の写真の EXIF と XMP に書き込まれます。値にラテン文字以外の文字が含まれていると、EXIF には書き込まれません。XMP には任意のテキストが書き込まれます。

スマートフォンのボタン

- **音量キー**：オフ、**シャッターレリーズ**（デフォルト）、フォーカス、ズーム、露出。
- **ズームボタン**：ズームレバーです。デフォルトはズームです。
- **カメラキー**：オフ（デフォルト）または**シャッターレリーズ**。

写真メニュー、設定メニュー、メディアマネージャーが開いている間は、これらのボタンは通常どおり動作します。

インターフェース、ストレージ、その他の設定

アプリでは： 7 → ⚙ → インターフェース



インターフェース

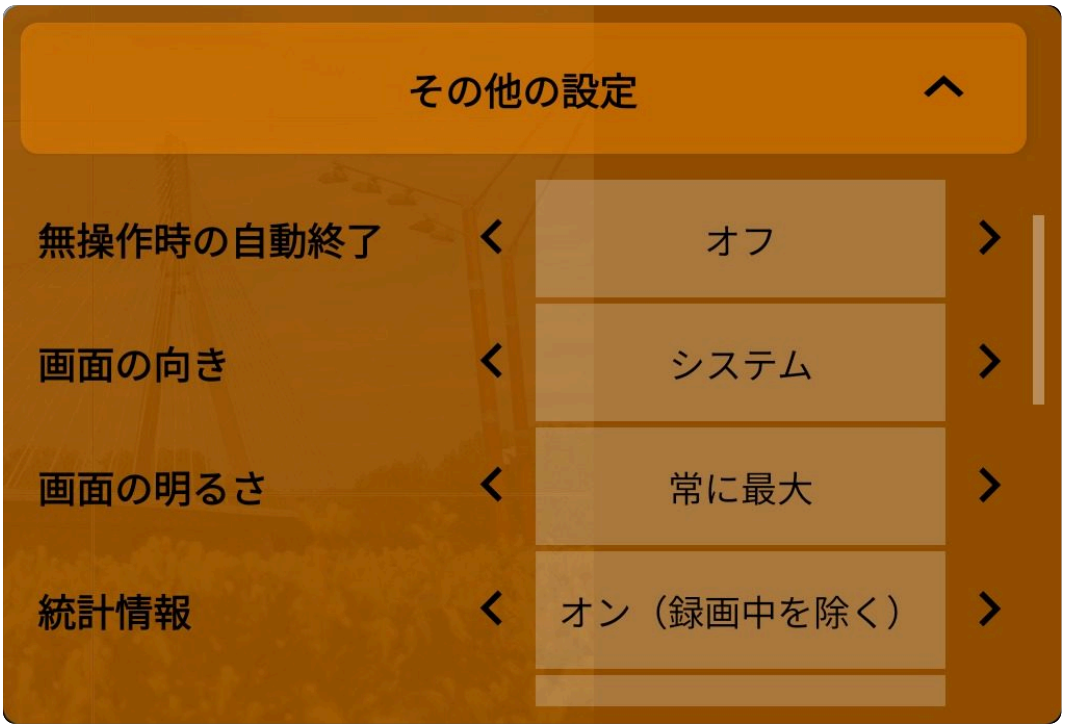
- **テーマ**：ライト、ダーク、システムのデフォルト。
- **UIの明るさ**、**UIの不透明度**：ボタンの明るさと不透明度です。
- **クイックボタン**、**表示・情報エリア**、**シャッターボタン**、**露出の操作**、**フォーカス・ズーム操作**、**画像の操作**、**設定ボタンとメディアマネージャー**：画面のエリアごとに、常に表示するか非表示にするかを選べます。
- **表示する情報**：情報エリアに表示する内容です。

ストレージ設定



ストレージの選択です。内部ストレージまたはカードから選びます。**ファイルパスに日付を追加**で、写真を日付ごとのフォルダーに分けます。

その他の設定



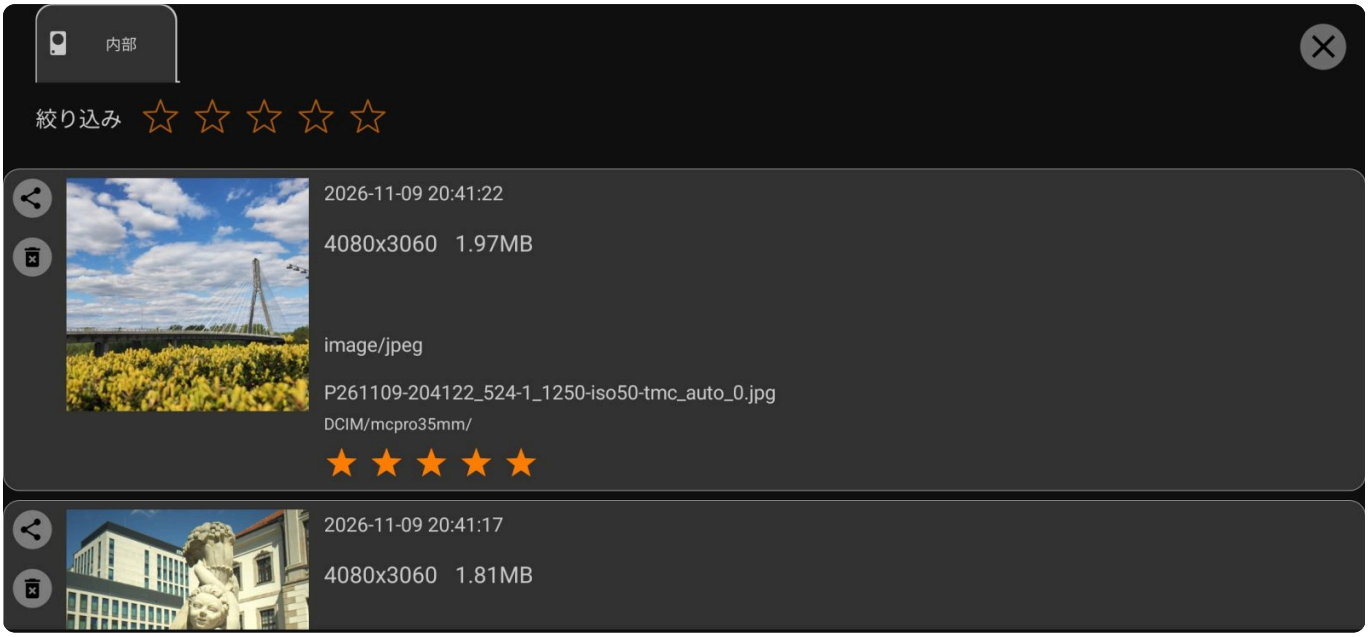
- **無操作時の自動終了**：操作がないときにアプリを閉じます。
- **画面の向き**：インターフェースの回転です。

- **画面の明るさ**：アプリ内の画面の明るさです。
- **言語**：アプリの言語です。
- **全体設定**：設定のリセット、ファイルへの保存、ファイルからの読み込みを行います。
- **プロジェクトを応援**：作者への任意の支援です。支援しても機能は解除されません。

メディアマネージャー

アプリでは： 7 → 🗀

アプリで撮影した写真の一覧です。



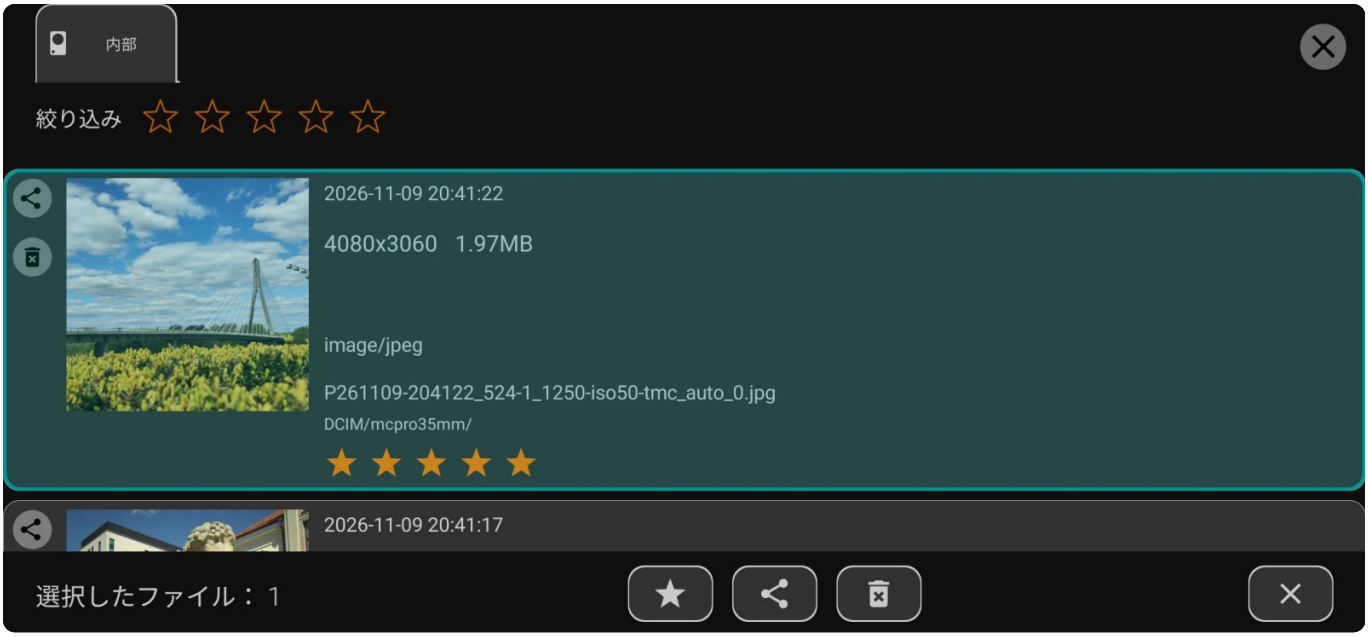
写真をタップすると開きます。HDR 画面では、ゲインマップ付きの JPEG はアプリ内蔵のビューアーで開きます。ピンチで最大32倍まで拡大でき、ダブルタップで 1:1 と画面に合わせた表示を切り替えます。その他のファイルはスマートフォンのビューアーで開きます。

評価

一覧の各 JPEG と DNG には 0〜5 の星が付いています。評価はファイル内の `xmp:Rating` フィールドに保存され、Lightroom などのプログラムからも読み取れます。上部の**絞り込み**の行で、選択した値より評価の低い写真を非表示にできます。評価機能は購入しなくても使えます。

複数の写真の選択

長押しすると選択モードになります。パネルに**評価**、**共有**、**削除**が表示されます。


内部
絞り込み
2026-11-09 20:41:22
4080x3060 1.97MB
image/jpeg
P261109-204122_524-1_1250-iso50-tmc_auto_0.jpg
DCIM/mcpro35mm/
2026-11-09 20:41:17
選択したファイル： 1

使い方ガイド

よくある作業の手順を順を追って説明する記事。

初めての撮影の前に設定する

新しいスマートフォンで一度、さらに撮影に使うカメラごとに、これらの設定を確認してください。

1. カメラボタンでカメラを選びます。
2. 写真メニューで**解像度**と形式を設定します。何を選ぶか迷ったら、JPEG から始めて**DNG も保存**をオンにしてください。完成した写真が手に入り、現像の余地も広がります。
3. ストレージ設定でファイルの保存先を確認します。
4. 操作設定で名前を入力します。名前はすべての JPEG と DNG の写真に書き込まれます。
5. テスト撮影をして、メディアマネージャーで開きます。

結果に満足したら、設定をプリセットとして保存してください。

手動露出で撮影する

1. 露出を手動モードに切り替えます。
2. 光の条件が許す範囲で最も低い ISO に設定します。ISO が低いほどノイズは少なくなります。
3. シャッタースピードを設定します。手持ち撮影では、広角レンズで 1/60 かそれより短く、望遠レンズではさらに短くします。
4. ゼブラをオンにします。重要な明るい部分に縞模様がかかったら、シャッタースピードを短くします。
5. ゼロから設定しなくて済むように、オートアシストボタンを押し続けてから離します。アプリが手動の値を設定します。

EV モードではホイールでフレームの明るさを変えられるので、シャッタースピードと ISO を別々に確認する必要はありません。ホイールモードをご覧ください。

どの形式を選ぶか

写真がすぐに必要なときは JPEG を使います。スマートフォンのカメラが処理するため、最も速い形式です。

パソコンで現像する写真には DNG を使います。シャドウとハイライトの余裕は最も大きいですが、ファイルが大きく、そのままでは投稿できません。

RAW現像の JPEG と Ultra HDR は RAW で撮影し、アプリがフレームを現像します。カメラのノイズリダクションとシャープネスは写真に反映されません。Ultra HDR にはゲインマップが加わり、HDR 画面ではハイライトが通常の JPEG より明るくなります。スマートフォンのビューアーがこのマップを表示するのは Android 14 以降です。それより古いスマートフォンでは写真は通常の写真として開きますが、画面が対応していれば、アプリのメディアマネージャーで HDR 表示できます。

HEIC と AVIF は同じ画質の JPEG よりファイルがかなり小さくなりますが、古いプログラムでは開けないことがあります。

完成した写真と元のデータの両方が必要なときは、**DNGも保存**をオンにします。各形式の設定はフォーマット設定で説明しています。

ブラケット撮影、インターバル、セルフタイマー

明暗差の大きいシーンのブラケット撮影

1. 撮影モードを開き、3枚または5枚を選択します。
2. 段数を1段または2段に設定します。シーンの明暗差が大きいほど、段数を大きくします。
3. スマートフォンを固定して1回押して撮影し、パソコンの HDR ソフトでフレームを合成します。

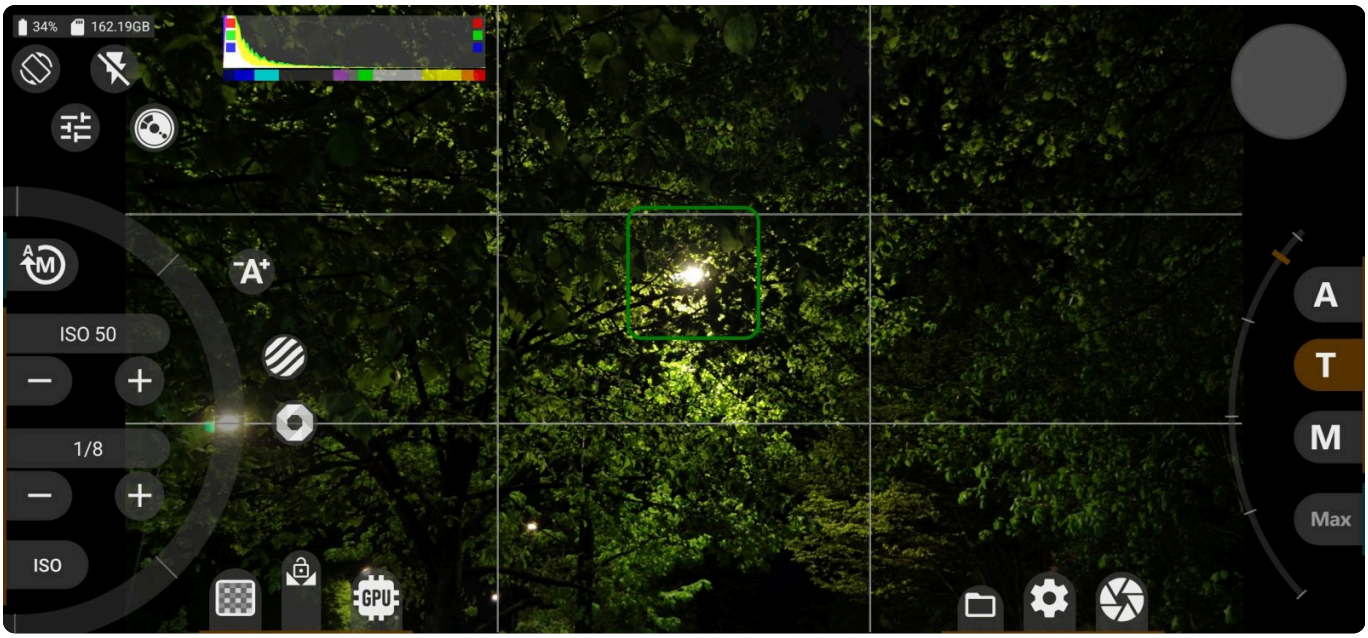
スケジュール撮影

1. 同じセクションで、インターバルと撮影枚数を設定します。
2. 露出とフォーカスは手動で設定します。そうしないと、フレームごとに明るさとピントが変わります。
3. シャッターを押します。もう一度押すと撮影が止まります。

三脚でのセルフタイマー

ボタンに触れたときのぶれを避けるには2秒、自分がフレームに入る時間を確保するには10秒を選びます。

長時間露光



1. スマートフォンを三脚に固定し、セルフタイマーを2秒に設定します。
2. 露出を手動モードに切り替え、ISO を低く設定します。
3. ＋ボタンまたは SS モードのホイールで、シャッタースピードを長くします。最長のシャッタースピードはスマートフォンのカメラによって決まります。
4. 手動フォーカスをオンにし、ダブルタップで必要な部分を拡大してピントを合わせます。暗い場所ではオートフォーカスのピントが外れることがよくあります。

シャッタースピードが1秒以上のときは、シャッターボタンの周囲のリングが残り時間を示し、ビューファインダーはシャッター幕で覆われます。

プリセット

プリセットは設定一式を保存し、ワンタップでその状態に戻れるようにするものです。

1. カメラを好みの状態に設定します。
2. プリセットボタンをタップし、＋ボタンで新しいプリセットを追加します。
3. 「City JPEG+DNG」のように、わかりやすい名前を付けます。

プリセットを適用するには、一覧を開いてタップします。

アイコン

撮影画面のすべてのアイコン。リンク先はボタンの説明です。

 Orientation: turns with the phone

 Orientation fixed: landscape

 Orientation fixed: portrait

 Orientation fixed: reverse landscape

 Orientation fixed: reverse portrait

 Flash off

 Flash: the camera decides

 Flash on every shot

 Flash with red-eye reduction

 External flash

 The screen acts as the flash

 Torch stays on

 Presets: save and apply camera setups

 Camera choice

 Battery level

 Free space on the selected storage

 These settings need the full version



Manual exposure on: tap for automatic



Hold to set exposure automatically once



Zebra: marks over- and underexposed areas



Lower ISO by one step



Raise ISO by one step



False Color: colours the frame by brightness



Shorter shutter: darker frame



Longer shutter: brighter frame



Viewfinder LUT on the whole frame



Automatic exposure on: tap for manual



Exposure compensation value



Darker: lower exposure compensation



Brighter: raise exposure compensation



Exposure follows the scene



Exposure is locked



Continuous autofocus



Tap to focus: tap the frame to focus there



Manual focus



Manual focus to your own infinity point



Zoom mode, limit: up to video size



Zoom mode, limit ×1.5



Zoom mode, limit ×2.0



Zoom mode, limit: camera maximum



White balance menu



Automatic white balance follows the scene



Automatic white balance is locked



Hold to set white balance automatically once



A saved white balance preset is selected



GPU processing menu



Hold to set white balance automatically once



Save the balance as a preset



Back to the saved preset values



Delete the preset



White balance panel



Colour gamut panel



Colour matrix panel



Fixes highlight artefacts with steep curves



Marks skin tones (wide selection)

 Marks skin tones

 Marks neutral, unsaturated areas

 Media manager: your photos

 App settings

 Photo menu

 Settings buttons folded: tap to show

索引

ガイドのボタン、メニュー項目、設定、トピックの一覧です。

A：常時オートフォーカス — フォーカス・ズーム操作

AE ロック — 自動露出

DNG 設定 — フォーマット設定

DNGも保存 — 写真メニュー

EV 補正 — 自動露出

HDRタイプ — フォーマット設定

ISO とシャッタースピード — 自動露出

ISO を下げる・上げる — 手動露出

ISO 値 — 手動露出

JPEG と RAW のハードウェア設定

JPEG ハードウェア設定 — JPEG と RAW のハードウェア設定

JPEG画質 — フォーマット設定

M：手動フォーカス — フォーカス・ズーム操作

RAW ハードウェア設定 — JPEG と RAW のハードウェア設定

T：タップフォーカス — フォーカス・ズーム操作

インターバルとインターバル撮影枚数 — 撮影モード

インターフェース — インターフェース、ストレージ、その他の設定

インターフェース、ストレージ、その他の設定

オートアシスト — 手動露出

カーブ、色、画像 — 画像の操作

カメラ — クイックボタン

カメラの処理 — JPEG と RAW のハードウェア設定

カラーマトリクス — 画像の操作

クイックボタン

グリッド — ビューファインダー設定

ケルビンホイール — 画像の操作

このガイドについて

シーンの EV — 表示・情報エリア

シーンの色温度 — 表示・情報エリア

シャッタースピード — 手動露出

シャッターボタン

シャッターレリーズ — シャッターボタン

シャッターを短く・長く — 手動露出

ズーム — フォーカス・ズーム操作

ズーム倍率ボタン — フォーカス・ズーム操作

スケジュール撮影 — ブラケット撮影、インターバル、セルフタイマー

ストレージ設定 — インターフェース、ストレージ、その他の設定

スマートフォンのボタン — 操作設定, シャッターボタン

ゼブラ — 手動露出, 自動露出

セルフタイマー — 撮影モード

ゼロ処理 — JPEG と RAW のハードウェア設定

その他の設定 — インターフェース、ストレージ、その他の設定

どの形式を選ぶか

ニュートラルチェック — 画像の操作

ノイズリダクション — フォーマット設定

ハイライト補正 — 画像の操作
バッテリー — 表示・情報エリア
バランスプレート — 画像の操作
ヒストグラム — 表示・情報エリア
ビューファインダー設定
ファインダーLUT — 手動露出
フォーカス・ズーム操作
フォーカスピーキング — ビューファインダー設定
フォーマット設定
フォルスカラー — 手動露出, 自動露出
ブラケット撮影、インターバル、セルフタイマー
ブラケット撮影と段数 — 撮影モード
フラッシュ — クイックボタン
プリセット — プリセット, 画像の操作, クイックボタン
フル版と無料トライアル — このガイドについて
フレーム — JPEG と RAW のハードウェア設定
ホイール — 手動露出, フォーカス・ズーム操作
ホイールモード — 手動露出
ボタンの鍵マーク — シャッターボタン
ボタンの周囲のリング — シャッターボタン
ホットピクセル補正 — フォーマット設定
ホワイトバランス — 画像の操作
ホワイトバランスパネル — 画像の操作
ホワイトバランスメニュー — 画像の操作
ホワイトバランスロック — 画像の操作
まとめたボタン — 設定ボタンとメディアマネージャー
メディアマネージャー — 設定ボタンとメディアマネージャー, メディアマネージャー
ワンショット AWB — 画像の操作
暗く・明るく — 自動露出
位置情報 — フォーマット設定
画像の操作
画面の向き — クイックボタン
解像度 — 写真メニュー
各モードでのボタンの動作 — シャッターボタン
顔フォーカス — フォーカス・ズーム操作
空き容量 — 表示・情報エリア
形式 — 写真メニュー
絞り — 設定ボタンとメディアマネージャー
撮影モード
撮影者と著作権 — 操作設定
三脚でのセルフタイマー — ブラケット撮影、インターバル、セルフタイマー
自動露出
写真メニュー — 設定ボタンとメディアマネージャー, 写真メニュー
手動 WB — 画像の操作
手動露出
手動露出で撮影する
初めての撮影の前に設定する
情報エリア — 表示・情報エリア
色域 — 画像の操作
色温度ホイール — 画像の操作
色合いホイール — 画像の操作
設定 — 設定ボタンとメディアマネージャー
設定ボタンとメディアマネージャー
操作設定

長時間露光

肌色チェック — 画像の操作

肌色チェック（広） — 画像の操作

表示・情報エリア

評価 — メディアマネージャー

複数の写真の選択 — メディアマネージャー

明暗差の大きいシーンのブラケット撮影 — ブラケット撮影、インターバル、セルフタイマー

連写と連写枚数 — 撮影モード

露出の操作

露出ピーキング — ビューファインダー設定

露出モード — 手動露出, 自動露出